

# 最近の大阪駅前事情

## 毎週月曜日夜、大阪駅前バスターミナルでは

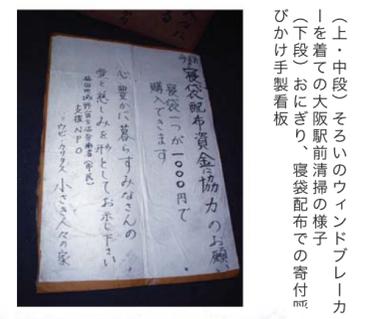
### ■大阪駅前では

昨年一〇月の国勢調査では、大阪市内で、野宿生活をしている人が三六五〇人であったと聞いています。調査でつかみきれない人たちが、大阪市内では野宿生活者は五千人を切ったと推計されています。またあちこちで野宿生活の人が減ったとも言われています。自立支援センターなどへの入所の人も、テナト居住の人よりも、毎晩どこかで一夜を過すしながら、各区の保健福祉センターに直接たずねるケースがずいぶん増えたとも聞いています。しかし依然、多くの人が新たに野宿生活をはじめ、屋外で野外で路上で何とか生活をしていることも現実です。

衣類や寝袋配布、掃除の活動をおこなっています。阪急百貨店を真向かいにした歩道橋下交番近くの決まった場所でのにぎりや衣類配布には、毎回五〇人前後が利用しています。またボランティアや野宿生活を送っている人たちが、二コースに分かれて、おにぎり配布を、二時から、ターミナル周辺各所に巡回しておこなっています。この移動しながらのおにぎり配布で、さらに五〇名前後に会われるようです。

### ■駅前清掃

四年ほど前からおにぎりや衣料配布のあと、大阪駅前清掃を、一〇人ほどの



# ビッグ・イシュー販売員報告 (第六回)

## ビッグ・イシューとの出会い

高野進 (仮名)

ビッグイシューとの出会いは平成一五年二月一日、京都市荒神口のバプテテスト教会の炊き出しでの説明が最初でした。自分の他に約二十人が参加しておこなわれ、二度めの説明会がその日のうちにおこなわれ、約十人が参加しておこなわれ、Tさんからいろいろ説明がおこなわれ、友達からもげひやったほうがいいと言われ、あんな気持ちで始めました。

で、その日のうちにまた十冊を買って、次の日から本格的に売り始めました。それまではアルミ缶買取の仕事をしていました。アルミ缶をあつめている時は、そんな頑張りとか、かぜをひかないでとか声をかけてくれる人なんかだれひとりいませんでした。だからビッグイシューを応援してくる人々はなんてやさしい人ばかりだろうと思いましたが、だからこれからもビッグイシューを売り続けたいと思います。

### 編集後記

「なにわ路情」発行も4年目に入りました。近頃は景気の回復や様々な施策や支援によって、野宿生活者は減ってきていると言われていました。しかし、まだまだ多くの野宿生活者がおられ、また「格差社会」の影響で将来新たに野宿に陥りかねない人、特に若い世代で増えるのではないかとという声も聞こえます。今号から元野宿生活者による連載企画が始まります。自身の経験から野宿者生活者について語っていただく予定です。当事者の視点から問題提起をいただき、皆で改めて考えていただければ幸いです。(け)

# なにわ路情

野宿者ジャーナル 15号(季刊)

「なにわ路情」がめざすもの  
■ 野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。  
■ 脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりを心がけています。  
■ 今までのこと、そしてこれからのこと、いっしょに考えていきたいと思います。

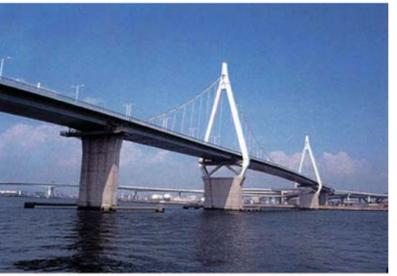
## 自立支援センターの最近の傾向は？

### 〜大阪での脱野宿事情〜

#### ■舞洲に開設のアセスメントセンター

大阪市では、この一月、此花区の舞洲にアセスメントセンターと自立支援センターの二施設が新設されました。これまでの市内三箇所自立支援センター体制で、市内で野宿生活を送っている人々は、街頭相談員の面接を通じて、就労意欲があることを基準に、センターに入所することができました。アセスメントセンターの開設で、たとえ就労意欲が高くなっても、とりあえず入れることが可能になりました。まがりなりにも、野宿生活者の脱野宿に向けての選択肢がひとつ増えたことになりました。

USJに向かうJRRゆめ咲線の終点、桜島駅から市バスに乗り換え、結構高さのある吊橋の此花大橋をわたります。オリンピックのメイン会場にも想定された人工島、舞洲の玄関口には、テーマパーク顔負けのフンデルトヴァッサーのデザインによる清掃工場が両脇で迎えてくれます。その裏手に、アセスメントセンターと自立支援センターが、海を横手に、プレハブ二階で建っています。アセスメントセンターは、定員一〇〇名、今年一月一〇日より入所者があり、この三月末まで二〇〇名近くが利用しています。すでに百四〇名ほどが退所し、三月末で五〇名ばかりが入所中でした。退所者のほ



此花大橋 自転車走行はなかなか大変です



舞洲清掃工場 センターはこの裏手にあります



アセスメントセンターの建物です うしろに清掃工場

ぼ全員が隣の自立支援センターや、従来からある三つの自立支援センターに転所しています。

入所する人の特徴は、野宿生活に實際いたったり、居住の「危機」を迎えて、本人が直接市内各区の保健福祉センターに訪ねて自立支援センター入所を求めるケース、口コミで知りたり、あるいは巡回相談員が案内するフリーダイヤルにかけてこられるとかいうケースがほとんどを占めるということです。一時的、緊急避難居住ができる自立支援センターの認知度が高まったともいえるでしょう。一方、テナト居住の人は少ないようです。平均年齢は五二歳とのことです。

#### ■従来の自立支援センターでは

旧市街地にある三センターは、す

でに六年目に入り、総入所者は三千人近くに達しようかとしています。あるセンターの最近の傾向をたずねてみました。このセンターでは今年二月で総入所者数が九〇〇名近くに達していますが、次のような特徴が見られます。

#### ■年齢

三年前の五二歳くらいの平均年齢が、最近では四八歳となり、かなり若年化して、二〇歳代、三〇歳代で一割以上となっています。

#### ■野宿形態

以前はテントが三分の一をしめていたが、今では一割前後にまで減っています。居住地は今でも公園が半数を占めているが、その大部分は公園で何もしないで寝泊りしているようです。

#### ■野宿生活日数

以前は一八ヶ月でしたが、最近は一五ヶ月と野宿生活経験期間はかな

り短縮化しています。

#### ■就労までの日数

センターに入所してから、最初に仕事を見つかるまでの期間は、以前は二ヶ月ちょっとでしたが、最近では三ヶ月くらいになっています。入所後の健康回復のための通院者が相対的に増え、また技能訓練のメニューが増え、それに要する時間が増えたことと関連しているようです。

#### ■通院率

通院率も以前の七割台から八割強、入院も一割を超えており、野宿生活を経て、ほとんどの人が何らかの医療処置を要している状態であることがわかります。

#### ■就労ルート

個人で見つけられるケースは四分の一弱なので、以前と同様、センター経由での就労ルートが、求職活動を行う上での主要ルートとなっています。(3面へつづく)

## 紙面

1	自立支援センターの最近の傾向は？	3	チャリティ・コンサート大阪で開催される
2	みなさんにも「適切な生活水準の権利」があります	4	最近の大阪駅前事情
2	連載(1)「行政代執行ニュースを見て」	4	ビッグ・イシュー販売員報告(第六回)
3	自立支援センターの最近の傾向は？(続き)	4	漫画「ナナコロビヤオキな人々」

発行元 **なにわ路情編集局**  
〒530-8090 大阪中央郵便局留  
「なにわ路情編集局」係  
tel 080-3767-7989  
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp  
http://www.naniwa-rojo.com/  
郵便振替口座番号  
00900-5-222740 なにわ路情編集局



